

第 39 回福岡 ICT 交流会

パネルディスカッション議事要旨

令和 6 年 3 月監修

福岡 ICT 交流会

第 39 回 福岡 ICT 交流会

日 時 : 令和 6 年 3 月 13 日(水)18:45-20:40

場 所 : 九州大学病院 百年講堂

【プログラム】 ◇テーマ「術前・処置前検査～梅毒の検査を中心に」

◇開会の辞 九州大学病院 グローバル感染症センター 下野 信行 先生

座長 白十字病院 感染制御部 井手 均 先生

◇一般講演

「事前アンケートについて」

九州大学病院 グローバル感染症センター 豊田 一弘 先生

「日常診療で遭遇するようになった梅毒感染の諸問題」

福岡赤十字病院 感染症内科 藤吉 直子 先生

「自部署での梅毒検査について」

千早病院 臨床検査科 工藤 友和 先生

「当院における梅毒の検査実施状況および診療体制」

福岡市民病院 感染症内科 原田 由紀子 先生

「術前/処置前検査への ICT 的アプローチ(特に梅毒)」

千鳥橋病院 感染症科 八板 謙一郎 先生

◇参加者全員による院内感染対策交流会 (フリーパネルディスカッション)

司会 九州医療センター 感染制御部 長崎 洋司 先生

福岡和白病院 看護部 崎田 宏 先生

パネリスト 演者全員

◇閉会の辞 原土井病院 九州総合診療センター 林 純 先生

術前検査に梅毒の検査は必要ですか？

術前検査の梅毒検査は不要であると思われる。

千鳥橋病院 八板 先生

個人的には術前の梅毒検査は必要ないと思われる。

福岡市民病院 原田 先生

リスクがある患者の場合は必要であるが、術前検査としての梅毒検査は必要ないと思われる。

千早病院 工藤 先生

術前検査として全例一律に行うのではなく、婦人科等でフレキシブルに行う必要があると思われる。

福岡赤十字病院 藤吉 先生

九大病院では、針刺し後の梅毒検査は結果が当日中に出るため、術前検査としての梅毒検査は不要であると思われる。また、術前検査としてHBV、HCV、梅毒、レントゲン、心電図は保険が適応となっているが、今後は梅毒の検査については検討する必要があると思われる。

九州大学病院 豊田 先生

一律の術前スクリーニング検査としての梅毒検査は必要であるのか？医療費の圧迫等も踏まえ、各ご施設で検討が必要であると思われる。

福岡大学病院 戸川 先生

現在、梅毒陽性者は増加傾向にある。医療従事者として何ができるのか？

内科外来の医師は梅毒の症例について理解を深めることが必要である。また、健診等での啓発活動を行うこと、医療者側として閾値を下げる必要があると思われる。

千鳥橋病院 八板 先生

院内の先生方に梅毒について理解を深めて頂き、適切な検査を行うこと。社会に対しての働きかけとして、行政と協力して啓発活動を行っていくことが必要であると思われる。

福岡市民病院 原田 先生

梅毒検査をルーチンの検査ではなく、必要な人に必要な検査を適切に行えるように院内の先生方に周知していくこと、社会に対しては啓発活動を行うこと、陽性者に対しては治療の重要性について説明を行うことが必要であると思われる。

福岡赤十字病院 藤吉 先生

九大病院ではブドウ膜炎や神経梅毒の症例が多く、梅毒は「怖い病気」、「危ない病気」であるという啓発活動が必要であると思われる。

九州大学病院 豊田 先生

患者、医療従事者の安全を目的としての梅毒検査は不要である。現在、梅毒陽性者の増加に対して地域として、医療機関として、どう対応していくかが重要な課題であると思われる。

福岡赤十字病院 石丸 先生

3

梅毒検査 RPR 法、TPHA 法について、同時に実施されていますか？どちらかを優先されていますか？

同時に実施しています。

千鳥橋病院 八板 先生

福岡市民病院 原田 先生

福岡赤十字病院 藤吉 先生

九州大学病院 豊田 先生

眼科で TPHA を先に実施し、陽性の場合に RPR を追加で実施している。その他の診療科では、同時に実施している。

千早病院 工藤 先生

福岡和白病院 崎田 先生より

自院では入院時に全例梅毒検査を行っており、検査結果の報告義務があるが全例に報告できていないことが現状である。陽性者に対しては、その後の検査や説明をどうするかについて主治医を交えて ICT で話し合いを行うことが必要であると思われる。懸念されるのは、結果の報告漏れである。各ご施設ではどのように対応されていますか。

検査結果の漏れについて、現在明確な対策はありません。

千早病院 八板 先生

明確な対応はありませんが、今後対策が必要であると思われる。

福岡市民病院 原田 先生

検査科として届出が必要なものに関しては、感染担当医師に報告を行っている。

千早病院 工藤 先生

全例報告に関しては、今後対策が必要であると思われる。

福岡赤十字病院 藤吉 先生

各担当医の判断で結果説明を行っている。

九州大学病院 豊田 先生